

## RECNAポリシーペーパー 「核兵器禁止条約発効:新たな核軍縮を目指して」

吉田 文彦

核兵器禁止条約(TPNW)が2021年1月22日に発効した。批准国が50カ国に達してから60日が経過し、晴れて発効の日を迎えたのである。核保有国、核の傘国といった「核抑止依存国グループ」がTPNWに背を向けているため、残念ながら条約発効が核廃絶への道筋を鮮明にするものではない。それでも、歴史的な一歩を踏み出した意義は非常に大きいと言えるだろう。

1月22日の11時2分。浦上天主堂のアンジェラスの鐘、長崎県原爆手帳友の会の平和の鐘などが一斉に鳴らされた。被爆者の皆さん、そして被爆地の方々が条約発効を心待ちにされていたかを物語る一幕が平和記念像前のイベントで見られた。亡くなられた被爆者たちへの黙とうのあと、世界にある約1万4000発の核弾頭に見立てた黄色の風船140個を参加者たちで1つ1つしまませた。核のない世界への強い思いが伝わってきた。

RECNAとして、この日をどう迎えるか。検討した結果、ポリシーペーパー「核兵器禁止条約発効:新たな核軍縮を目指して」をまとめることにした。掲載論文は、①核兵器禁止条約:第1回締約国会合に向けた課題(中村桂子)、②核兵器禁止条約における被害者援助の意義と展望(広瀬訓)、③米バイデン新政権の核政策(西田充)、④核兵器禁止条約と核不拡散条約(黒澤満)、⑤パンデミックと核軍縮(鈴木達治郎)、⑥被爆地の新たな役割:「人類の安全保障」のためのネットワークハブに(吉田文彦)の6本である。改めて読み返すと、歴史的な瞬間に合わせての論考だけに、いつもにも増して力がこもっている気がする。

発効日より一足先の1月21日に記者会見し、概要を説明させていただいた。同日、RECNAのウェブでも公開した。以下のURLでご覧いただけるので、ぜひご一読いただければ幸いです。

<http://hdl.handle.net/10069/00040469>



核兵器禁止条約発効を伝える長崎市の立て看板 2021年3月  
(長崎市役所 撮影:RECNA)

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長)

## 被爆75年記念特別シンポジウム開催「平和・軍縮教育の新たな展開」

中村 桂子

2020年11月25日、被爆75年記念特別シンポジウムとして、「平和・軍縮教育の新たな展開～核兵器禁止条約の時代を見据えて」を開催した(主催:RECNA、協力:国際基督教大学平和研究所(ICU-PRI))。シンポジウムは、NBCビデオホール(長崎市)を会場とする対面式と、Zoomを使ってのオンライン配信のハイブリッドで行われた。会場とオンラインをあわせて240名近い参加があった。また、2021年3月5日現在、日本語版・英語版あわせた動画再生数は750回を超えている※。

シンポジウムは二部構成であった。第一部では、前京都大学総長の山極壽一氏が、「暴力と戦争の由来:ゴリラの視点から人類の進化を考える」と題する特別講演を行った。山極氏は、人間がこれまでの歴史の中で共感力を高め、社会性を育んできた歩みを振り返り、戦争のない平和な社会を人間が作っていくことは可能であると訴えた。

後半はパネルディスカッションであった。国連軍縮局(UNODA)ウィーン事務所長のバレール・マンテルス氏、ICU-PRI所長の笹尾敏明教授、韓国の韓信大学平和と公共性センター長のイ・キホ教授、RECNAの中村桂子の4名がパネリスト、ICUの西村幹子教授がモデレーターを務め、「新たな時代の平和・軍縮教育」をテーマにそれぞれの立場から意見交換を行った。

RECNAとICU-PRIは平和・軍縮教育に関する共同研究を2019年度に開始した。2020年度からは科学研究費の助成を受けて、共同研究プロジェクト「日韓共同による軍縮・平和教育プログラムの作成・実践・評価:教育学的アプローチ」を進めている。笹尾、西村、イ、中村の4名は同プロジェクトに参加しており、パネルディスカッションではプロジェクトの概要や進捗についても報告があった。

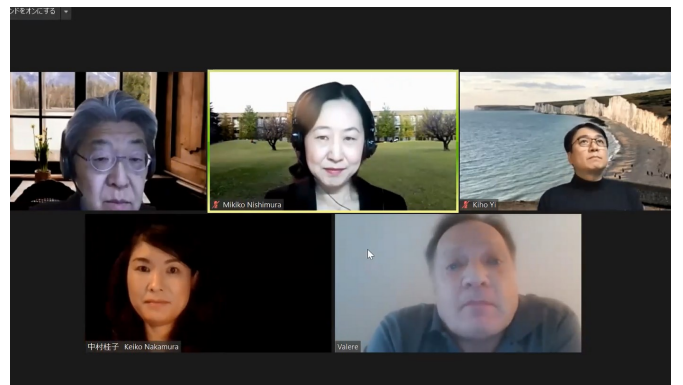
なお、山極氏による第一部の講演については、日本語版、英語版の動画教材として編集しなおす作業が進められている。完成した動画教材は、広島市・長崎市・広島平和文化センターが認定する「広島・長崎講座」に提供することを含め、今後の軍縮教育の普及・促進に向けて活用される予定である。

※動画は以下URLで視聴できます。

<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/topics/26584>



特別講演の様子 2020年11月25日  
(NBCホール 撮影:RECNA)



パネルディスカッションの様子 2020年11月25日  
(NBCホール 撮影:RECNA)

※本シンポジウムにおいては、冒頭の20分ほどにわたってZoomの日本語音声配信がされないという技術トラブルが発生し、視聴されていた皆様には大変ご不便をおかけいたしました。ぜひ動画をご覧くださいませようお願いいたします。

(なかむら けいこ、RECNA准教授)

本プロジェクトは、被爆75周年記念事業の一つとして、ノーチラス研究所、アジア太平洋核軍縮・不拡散リーダーシップネットワーク(APLN)と共催で実施された。プロジェクトは世界規模で広がるパンデミックと核兵器のリスクの複雑な関係についての理解を深め、北東アジアにおける政策提言をまとめることが主な目的であった。この難しい課題に答えるため、今回は不確実な未来における戦略立案に有効とされる「シナリオ・プランニング手法」を採用して、2020年10月～11月にかけて4回のオンライン・ワークショップを実施した。ワークショップには、11か国から約50名の専門家、若者が参加して、専門のファシリテーターのもと、2030年にむけた4つの未来を描いた(図)。

シナリオは、(1)核軍縮における影響力の中心は「国家主体」にあり続けるのか、それとも市民社会や地方自治体などの「非国家主体」に移るのか、(2)グローバルなリスクへの対応は、より「協調的」に向かうのか、それとも「分断的」になるのか、の2軸で作成された。

4つのシナリオは、上記の2軸によって、①中堅国の台頭(大国の影響力が落ちて、その穴を中堅国家が埋める)とグローバルな多国間協力が進む②先導する地方・市民社会(非国家主体に影響力はシフトし、地方自治体・市民社会が主導する)③島国志向(国家主体が影響力を維持するが緊張感が高まり戦争のリスクも増大する)④脆弱な理想主義(市民社会が活動を拡大するが協力が進まず、食い違いが発生する)、となった。

この4つの未来に対応すべく、プロジェクトは16の提言を行っている。大きく分けて①支援者層の関与拡大(特に若者や地方自治体の関与拡大)②戦略地政学的行動(主に北東アジアの緊張緩和と非核化)③技術的解決策(デジタ

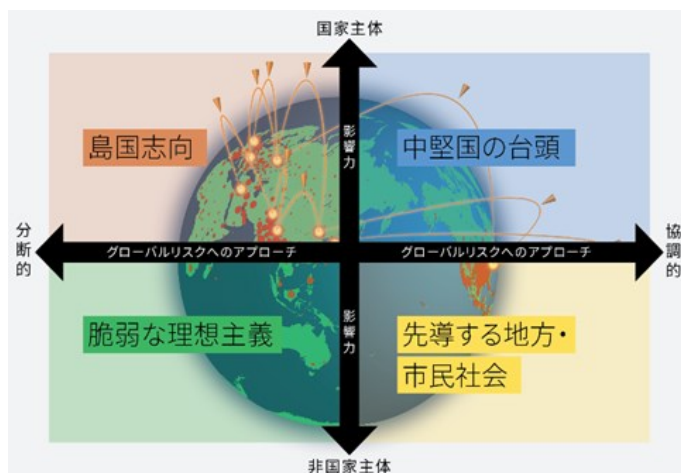


図 4つのシナリオマトリックス

ル社会の安全確保と有効な活用)の3点があげられた。シナリオと提言は報告書「パンデミックの未来と核兵器リスク」として2020年12月に英文、2021年1月に日本語、韓国語、中国語版(要旨のみ)を発表した。

さらに、この提言に基づき、PSNA共同議長が3つの提言を加えて「長崎を最後の被爆地に！北東アジアにおけるパンデミックと核に関する19の提言」を発表した。その中で、注目されるものとしては、北東アジアの地域諸国が核のリスク低減のために「核ホットライン」を設置すべく、地域サミットを開催する提案であった。

また、このプロジェクトのために、世界の専門家による15のワーキングペーパーが発表されている。

※下線部よりリンクが開きます。

(すずき たつじろう、RECNA副センター長)

## RECNA研究会 被爆者の経験をどう継承するか

桐谷多恵子／橋場紀子

2021年1月26日(木曜日)16時より、第36回RECNA研究会がオンラインで開催され、2つの報告が行われた。

第一報告者である桐谷多恵子客員研究員は、「被爆者にとっての〈復興〉を手探りで考える」と題して報告を行った。被爆者にとって、「復興」とは果たして何なのか。これまで広島と長崎の「復興」は、都市計画を基軸に語られてき

た。しかし、報告者が行ってきた被爆者への聞き取り調査から見えてくる被爆者の〈復興〉の姿は、都市計画の歴史とはうまく重なり合わない。本報告では被爆者の語る〈私たちの復興〉から戦後の広島と長崎の〈復興〉を考察した。報告は二部構成で行われ、第一部では長崎の浦上で大事に語られてきた〈復興〉の歴史として、「ヨゼフ様」こと、岩永富一郎修道士の活動を紹介した。第二部では、広島市の被爆者

である切明千枝子さんの語る〈私たちの復興〉を通して広島の〈復興〉を考察した。

以上の報告を通して、生活当事者たちにとっての〈復興〉は、毎日を生きていくこと、再び自分たちの日常生活を取り戻すことが日々の課題であることを確認した。そして今後の「復興」の記述の課題は、暴力によって非人間化された人間が、人間的で豊かな生を取り戻そうとする営為として描写されるべきであろうと述べて締めくくった。

第二報告者は長崎大学多文化社会学研究科博士課程の橋場紀子氏で、修士論文「韓国人被爆者：「語り」から見る社会的被害の特徴分析」(2020)を基に発表を行った。本論文は韓国人被爆者のインタビュー調査等から日本人被爆者の被爆体験の「語り」との相違点や韓国人被爆者特有の社会的被害をまとめたものである。通常、被爆体験は「あの日～」と原爆投下を起点として語られることが多いが、韓国人被爆者は渡日理由等、原爆投下前の分量が

相対的に多く、被爆場所の地名や被爆距離が不明だったり、放射能に関する知識が相対的に少ない傾向がみられた。また、北朝鮮情勢から「韓国も核兵器を持つべきだ」と話す被爆者もいて、日本のような「反核思想」が必ずしも表れなかった。

一方、その語りには貧困や差別のほか、韓国人特有の社会的被害として被爆者としての援護や治療を受けられなかったことが述べられた。このうち、結婚差別について日本人被爆者は本人、韓国人被爆者は子世代、と差別された時期に違いがみられた。発表では韓国人被爆者の社会的被害は「被爆者や放射能に関する情報伝達の遅れや被爆者援護制度上の継続的な不平等」がもたらしたのではないかと指摘した。

(きりや たえこ、RECNA客員研究員／はしば のりこ、長崎大学大学院生博士課程)

## ナガサキ・ユース代表団 9期生活動開始

ナガサキ・ユース代表団

2020年11月27日金曜日、ナガサキ・ユース代表団の9期生の任命式が実施され、長崎大学・大学院、長崎県立大学および長崎外国語大学から、9名の学生(一人は8期生から継続)が新たにナガサキ・ユース代表団としての活動を開始した。昨年から続くコロナウィルスの世界的な感染のために、2020年に予定されていた核不拡散条約(NPT)の再検討会議は今年8月に延期されているものの、開催の見通しや形式は不確定であり、ナガサキ・ユース代表団が例年のように参加できるかどうか、現時点では不明である。そこで当面は派遣も視野に入れて、核兵器を取り巻く国際情勢や核軍縮についての学習を重ね、オンラインでの各種のイベント参加等を進めていく予定である。

また、ナガサキ・ユース代表団の活動がBasel Peace Office (スイス)の主催する2021年Basel PACEY Plus

### ●有吉 亜樹人 (ありよし あきと)

長崎大学医学部2年

有吉亜樹人です。将来、八月九日の子どもたちの平和集會に、語り部の方々の気持ちを受け継いだ若者が講演することが当たり前になればと思い、ナガサキ・ユース代表団に入りました。よろしく願い致します。

Youth Award(平和と環境に関する欧州青年活動プラスバーゼル賞)のヨーロッパ外／グローバル部門で、多くの応募の中から最終候補に選ばれた。9期生が代表として1月29日にオンラインで最終プレゼンテーションを行い、メンバーが被爆地ナガサキからの核兵器のない、平和な世界へ向けてのメッセージを力強く発信した。残念ながら審査結果は三位で、受賞はならなかったものの、これはナガサキ・ユース代表団が国際的にもその活動が認められたという一つの証であり、さらに世界で活動する他の青年たちの活動から大きな刺激を受ける結果ともなった。

ナガサキ・ユース代表団の9期生は下記の通り(50音順、学年は2021年3月1日現在)

### ●大園 穂乃佳 (おおぞの ほのか)

長崎県立大学地域創造学部1年

ナガサキ・ユース代表団9期生として活動させていただいている長崎県立大学地域創造学部実践経済学科1年の大園穂乃佳です。ナガサキ・ユース代表団での活動を通して、県外の人々にもっと広島と長崎に投下された原子

爆弾のこと、核兵器の恐ろしさ、そして平和の大切さについて伝えていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

●川尻 ゆい（かわじり ゆい）

長崎大学大学院教育学研究科1年

ナガサキ・ユース代表団9期生の川尻ゆいです。長崎から伝えることの出来る平和教育について詳しく理解し、発信していきます。また、世代を超えて交流を行い、日常生活の中でつながりを構築する活動を目指します。

●鈴木 直緒（すずき なお）

長崎県立大学経営学部3年

長崎県立大学 経営学部 3年の鈴木直緒です。私は長崎から平和教育について日本全国に発信しネットワークを作る取り組みをしたいです。平和について自分自身の考えを深めつつ結果的に核廃絶に貢献したいです。

●中村 楓（なかむら かえで）

長崎大学多文化社会学部2年

みなさま、こんにちは。長崎大学多文化社会学部の中村楓と申します。核兵器にまつわる問題に興味のない人が少しでも考え始めることのできる「入口」を作れるよう頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●藤田 裕佳（ふじた ゆうか）

多文化社会学部2年

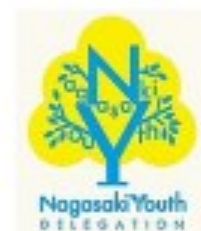
皆さんこんにちは。長崎大学多文化社会学部(国際公共政策コース)2年の藤田裕佳と申します。佐賀県出身です。核兵器問題に関心や興味が無い人を大きく巻き込んで、被爆された方々の声を長崎から広げていきたいと思っています！よろしくお願いいたします。

## PACEY Plus Awards 2021

The Nagasaki Youth Delegation is a human resources fostering program targeting youth aged between 18 to 25 residing, studying or working within the Nagasaki prefecture. Its activities are designed to equip young people in Nagasaki who will lead the next generation with an ability to think and act on their own, through learning in a practical manner about nuclear disarmament and peace issues.

### NAGASAKI YOUTH DELEGATION

NAGASAKI YOUTH DELEGATION (JAPAN)



PACEY Plus Award 2021にビデオ参加する9期生  
(前列向かって右から大園、川尻、鈴木、中村、後列向かって右から有吉、藤田、宮本、村上、山口)

●宮本 光（みやもと ひかる）

長崎外国語大学外国語学部2年

ナガサキ・ユース代表団9期生宮本光です。核兵器を始めとする社会問題について考え、若者からの視点や考えを声にして発信していきます。次世代の若者にも平和のバトンを繋げられるよう全力で頑張ります。

●村上 文音（むらかみ あやね）

長崎大学多文化社会学部1年

長崎大学多文化社会学部1年の村上文音と申します。長崎市出身で、高校生の頃から平和活動に携わって参りました。私は核兵器をはじめ、多様な社会問題に対し関心を持つきっかけを与えられる人材になりたいと考えています。社会における問題への関心を持つハードルを下げ、主体的に考え、行動することの常識化を実現させられるよう代表団として精一杯努めてまいります。

●山口 稔由（やまぐち みゆ）

長崎大学多文化社会学部2年

長崎出身、長崎大学多文化社会学部の山口稔由です。平和とは何か、また、平和を構築していくにはどうすれば良いか、多くの人に考えてもらうことのできるきっかけ作りをしていきたいな、と思っています。よろしくお願いします！

（ながさき ゆース だいひょうだん だい9きせい）

# RECNAの活動

2020年10月1日～2021年3月31日

10月19日(月)	被爆75年記念事業「ナガサキ・核ーパンデミック・シナリオプロセス」に関する記者会見(オンライン): 調副学長、吉田センター長、鈴木副センター長 場所: RECNA1階会議室	lowed by PACEY plus Award 広瀬副センター長、ナガサキ・ユース代表団 オンライン
10月24日(土)	2020年度核兵器廃絶市民講座講演: コンペル兼任准教授、鈴木副センター長 第3回「沖縄と核 歴史を変えた1945年の空白」 時間: 13:30～15:00 場所: 長崎県庁大会議室(長崎市) & オンライン	1月21日(木) RECNAポリシーペーパー No.12「核兵器禁止条約発効: 新たな核軍縮を目指して」発刊に関する記者会見(オンライン): 吉田センター長、鈴木副センター長、広瀬副センター長、中村准教授 場所: RECNA1階会議室 & オンライン
10月25日(日)	【レクナの目】「核兵器禁止条約の発効確定を受けて」記者会見: 吉田センター長・鈴木副センター長 場所: RECNA1階会議室	1月26日(火) 第36回RECNA研究会 講師: 桐谷多恵子客員研究員「被爆者にとつての〈復興〉を手探りで考える」 講師: 橋場紀子長崎大学大学院博士後期課程「韓国人被爆者: 「語り」から見る社会的被害の特徴分析」 オンライン
10月31日(土)～11月1日(日)	被爆75年記念事業「ナガサキ・シナリオプロセス: パンデミックと核リスク」第1ラウンド(オンライン)	1月27日(水) シナリオ・プランニング日本語版報告書・PSNA提言に関する記者会見: 吉田センター長、鈴木副センター長、広瀬副センター長、中村准教授 場所: RECNA1階会議室
11月14日(土)～11月15日(日)	被爆75年記念事業「ナガサキ・シナリオプロセス: パンデミックと核リスク」第2ラウンド(オンライン)	1月28日(火) 核遺産・核政策研究会: 鈴木副センター長、広瀬副センター長、桐谷客員研究員、山口客員研究員 オンライン
11月25日(水)	被爆75年記念特別シンポジウム「平和軍縮教育の新たな展開～核兵器禁止条約の時代を見据えて～」 基調講演: 山極 壽一 第26代京都大学総長 場所: NBCビデオホール&オンラインでのライブ配信	1月30日(土) 2020年度核兵器廃絶市民講座講演: 吉田センター長、太田昌克客員教授 第5回「核政策は変わるか 大統領選挙後のアメリカ」 オンライン
11月27日(金)	ナガサキ・ユース代表団第9期生任命式及び記者会見 調副学長、広瀬副センター長、ナガサキ・ユース代表団 場所: RECNA1階会議室	2月21日(日) 長崎平和推進協会「国際青年平和フォーラム」事前学習会 講師: 広瀬副センター長 オンライン
12月1日(火)	UNESCO International Institute for Capacity Building in Africa, Peace and Resilience Building in Education policies and Courses “Toward a World without Nuclear Weapons” 講師: 広瀬副センター長 オンライン	2月27日(土) アジア平和ネットワークフィードバックセミナー 中村准教授 場所: 長崎原爆死没者追悼平和祈念館 & オンライン
12月8日(火)	核遺産・核政策研究会: 鈴木副センター長、広瀬副センター長、桐谷客員研究員、山口客員研究員 場所: RECNA1階会議室 & オンライン	2月28日(日) 長崎平和推進協会「国際青年平和フォーラム」 講評: 広瀬副センター長 オンライン
12月12日(土)	2020年度核兵器廃絶市民講座講演: 高見大司教、四條長崎大学多文化社会学部客員研究員 第4回「ローマ教皇の長崎訪問の意義」 場所: 長崎県庁大会議室(長崎市) & オンライン	3月2日(火) 核遺産・核政策研究会: 調副学長、吉田センター長、鈴木副センター長、広瀬副センター長、桐谷客員研究員、山口客員研究員 オンライン
1月19日(火)	Intergenerational forum on peace, the climate, nuclear disarmament and the pandemic, fol-	3月11日(木) 第12回RECNA運営会議 場所: RECNA1階会議室 & オンライン

3月19日(金) RECNA叢書6 『第三の核時代 破滅リスクからの脱却』 刊行記者会見 吉田センター長、鈴木副センター長、広瀬副センター長、中村准教授  
場所:RECNA1階会議室&オンライン

3月28日(日) 語り継ぐ被爆体験(家族・交流証言)講座  
「核兵器の現状、国際社会の取り組み」 講師:  
広瀬副センター長  
場所:長崎原爆資料館

3月29日(月) ICUとのサービスラーニングに関する協定書締結式・記者会見 調副学長、吉田センター長  
場所:長崎平和推進協会&オンライン

## お知らせ

【RECNA叢書6号】『第三の核時代:破滅リスクからの脱却』(電子書籍)を3月19日に刊行しました。

以下の電子書籍サイトから「無料」で購読していただけます。



● [Amazon](#) ● [楽天ブックス](#) ● [紀伊國屋書店](#)

● [オムニ7](#) ● [e-book japan](#) ● [ひかりTV](#)

(※日本国外でのダウンロードの場合には、紀伊國屋書店版が便利です)

【2021年度核兵器廃絶市民講座】

第1回

「第三の核時代 持続可能な平和への方向転換」

講師:吉田文彦 RECNAセンター長

毛利勝彦 国際基督教大学教授

日時:6月12日(土) 13:30~15:00 (15:00~15:30

RECNAと語ろう)

会場:原爆資料館ホール・オンライン配信

第2回

「論壇風発 市民・平和運動の150年」

講師:目加田 説子 中央大学教授

橋場 紀子 長崎大学大学院博士課程

日時:9月18日(土) 13:30~15:00 (15:00~15:30

RECNAと語ろう)

会場:原爆資料館ホール・オンライン配信

参加費無料、事前申し込み不要 (※オンライン参加の場合には事前登録が必要です。)

**RECNA ニュースレター**  
長崎大学核兵器廃絶研究センター

第9巻2号 2021年3月31日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター  
〒852-8521 長崎市文教町1-14  
Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165  
E-mail: recna\_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp  
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

©2021 長崎大学核兵器廃絶研究センター